

ホタテガイ養殖管理情報

今夏の水温は高めのため、新貝の掃除等は、 適水温と体力回復を待ちましょう

1 海況

8月31日～9月5日の各ブイの中層（10～15m層）の水温は23.1～24.5℃で（図1）、平年並み～平年よりやや高い水温となっています。

2 新貝の養殖管理について

ホタテガイ新貝および成貝は、20℃で成長が止まり、それ以降は中腸腺（ウロ）や貝柱の栄養を使って生命を維持しますが、水温が高くなるほど栄養の消費が激しくなり、最後は**栄養不足でへい死**します（図2、3）。

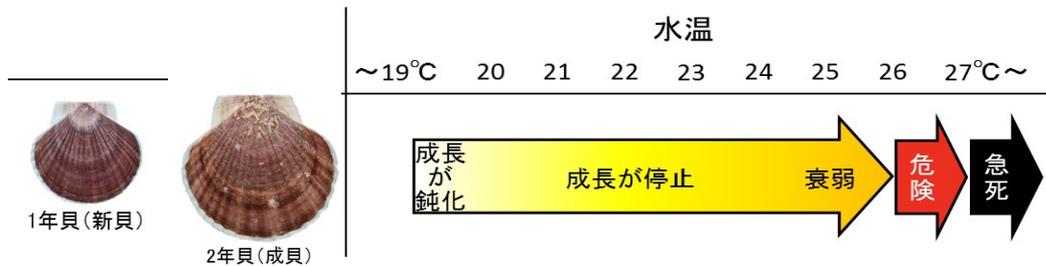


図2 新貝および成貝の成長と生残率に与える水温の影響

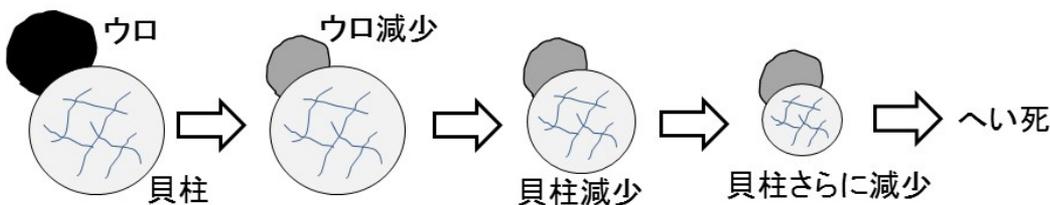


図3 高水温が続いた場合のホタテガイのへい死メカニズム

今夏の水温は、中層で平年よりも早い7月下旬で20℃に達し、8月が平年よりも概ね高め、30m層も8月中下旬に平年よりも概ね高めで推移したため（陸奥湾海況情報 No. 1404～1408）、今後の作業では例年よりも丁寧に扱う必要があります。また、水温が20℃を下回る前に作業を行うと、へい死率や異常貝率が高まる傾向がみられます（図4）ので、新貝の作業（玉付け・籠替え・掃除）は、**中層の水温が20℃を下回り、貝の体力回復の目安となる「フチがまわっている」ことを確かめてから開始**しましょう。

※籠や耳吊りが海底に着底している場合は水温が22℃前後でも玉付けを行って構いません。

3 稚貝分散について

稚貝の状況や作業時の注意点については、9月下旬～10月上旬にお知らせします。

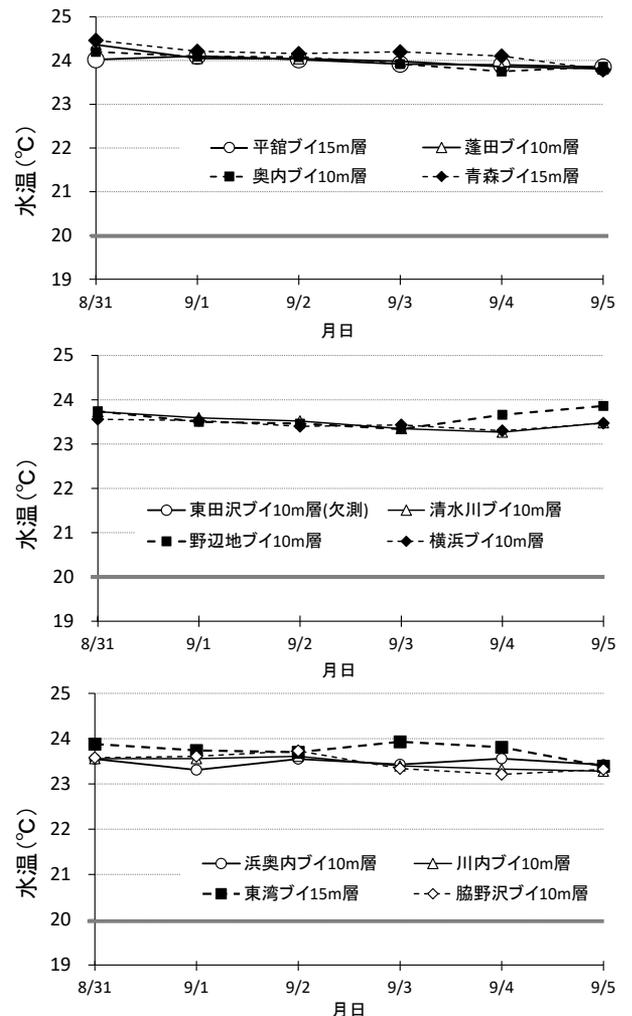


図1 海況自動観測ブイ（15m層）と水温観測ブイ（10m層）での日平均水温の変化

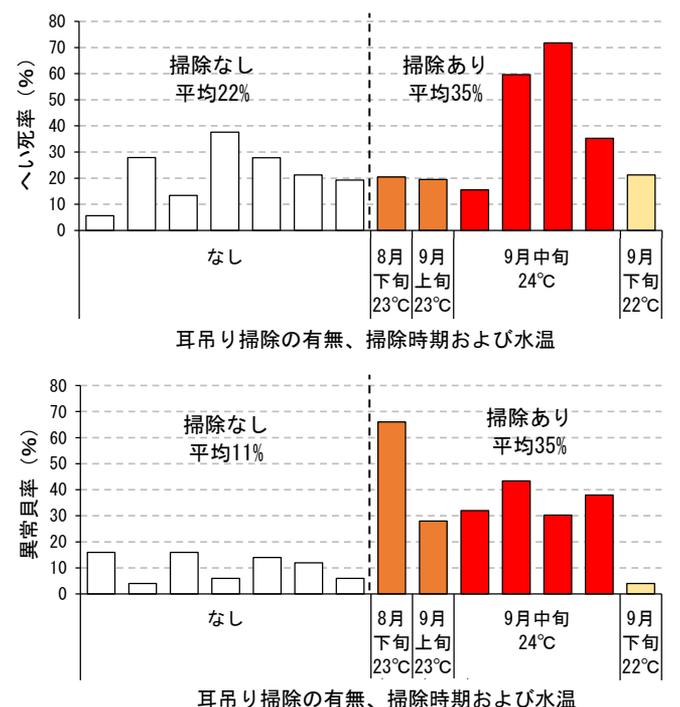


図4 耳吊り新貝の掃除時期別へい死率及び異常貝率 (R1年秋季実態調査)

